



第26号

発行所 大阪市史跡 龍溪禪師墓所
靈龜山 九島 禪院
〒550 大阪市西区本田3丁目4-18
☎06-583-2725
発行人 住職 奥田 啓知 (智證)

大統領のウソ

ウソをつく必要のない生活を!

クリントン米大統領の不倫・偽証強要疑惑が世界中の耳目を集めています。

クリントン大統領と不倫関係にあったという元ホワイトハウス職員、モニカ・ルインスキーさん(二四)の告白テープから大統領の州知事時代のセクハラ裁判で証言に立った彼女に、大統領側近がウソの証言をするように依頼した疑惑も明らかとなつて、刑事事件へと発展する可能性も浮上し、今回の疑惑がにわかには政権を揺るがす事態に至っています。

今回のクリントン大統領による不倫もみ消し疑惑の核心は、せんじ詰めれば、大統領自身がウソをつかされたのかどうか、さらにはウソをついたのかどうかにあります。

仏教では戒のひとつに「不妄語戒(ふもうごかい)」があります。ウソをついてはいけなと戒められています。しかし、ウソをつくな、真実を語れ、と言われても、そう単純にはわりきれぬものではありませぬ。

なぜなら、真実ほど、人を傷つけるものはありません。音痴の人、短足の人、怠け者、それぞれ人はみんなそれぞれの真実を気にしています。それを他人に言われたとき、どれだけその人が傷ついているか、少し考えれば分かります。がんに罹った人に、あなたはがんですよと真実を告げることは、その人を傷つけることになりませぬ。

では、真実をやめて、ウソをつけばよいのかといえ、話はそう単純ではありません。ウソは、それがウソと分かたるとき真実よりもっと傷つけます。どうすればよいのでしょうか。それは、ウソをつかないという努力をするより、ウソをつく必要をなくすようにすべきなのです。

たとえば、浮気や不倫をする、それを隠すためにウソをつかざるをえなくしておいて、ウソをつくまいとしても不可能で、よからぬ、浮気や不倫をしないようにしなければなりません。



26日、ヒラリー夫人の見守るなか、ホワイトハウスで会見、疑惑を否定するクリントン大統領(ロイター)

それが、「不妄語戒」の意味ではなく、ウソをつかないでもいように自分を律せよ、ということなのです。

しかし、聖人君主でもないわたしたちは、どうしてもウソをつかざるをえないときがあります。しかし、人をだましても自分自身だけにはウソはつけなくても忘れてはなりません。

クリントン米大統領の不倫・偽証強要疑惑も、ヒラリー夫人の活躍により、解決するかも知れませんが、一連の報道が事実ならば、大統領自身の生活態度——ウソをつかざるを得ないような——をあらためないかぎり米国大統領史上に汚点を残さるることになってしまいうでしよう。

大阪にオリンピックを！ 九条に中華街を！ 二十一世紀まであと二年！

